

## なごやぬいぐるみ学童春実施報告書

文責：畑下直

連絡先：nhatt222@gmail.com

### ●実施概要

- ・実施日：2013年3月7日
- ・活動場所：名古屋大学ポピンズアフタースクール
- ・当日参加した学生の人数：23人
- ・子どもの人数：小学生1~4年生11人
- ・活動時間：16:30 ~17:30
- ・活動内容：ぬいぐるみ病院、アイスブレーキング
- ・保健教育テーマ：「目の見える仕組み」
- ・当日の流れ（園児の動き、学生の動きが分かるように）

時間	行ったこと
10:00	鶴舞キャンパス集合
10:00~	リハーサル・打ち合わせ
14:00	
15:00	移動、東山キャンパスにて記念撮影など
16:15	入室
16:30~	アイスブレーキング
16:45	
16:45~	問診・保健教育
17:05	
17:10~	問診・保健教育
17:30	
17:30	退出
18:00~	反省会
20:00	

### ●準備について

- ・今回の準備に向けて初めてMTGを行った日：1月6日（Skype）
- ・準備に来た学生の人数：1日平均10人

当日までの準備の日程・内容

日程	話し合ったこと、準備したもの
----	----------------

1 2月	学童の先生に実施のお願い。保健教育で扱ってほしいテーマがあるか聞く。 5個ぐらいテーマ案を頂く。 学生に実施の告知。春実施コア（リーダー・サブリーダー）決め
1月6日	コアで話し合い
1月中	実施参加者募集、保健教育テーマアンケート、ちょー助アンケート
2月16日	第一回準備 保健教育方針決め
20日	2回目 タイムライン話し合い
21日	3回目 アイブレ考える 問診にキアニス導入決定
	4回目 保健教育話し合い
	5回目 保健教育話し合い
27日	6回目 問診について話し合い
3月2日	7回目 保健教育・問診話し合い シフト・持ち物分担決定
3日	8回目 保健教育・問診話し合い、練習
4日	9回目 保健教育・問診話し合い、練習 アイブレ作成
5日	10回目 保健教育・問診話し合い、練習 アイブレ作成
6日	11回目 保健教育・問診話し合い、練習

●診察（おいしゃさんごっこ）について

前回からの改善点・工夫した点

- ・キアニスドールの導入（学童が当日は学校があり、実施時に自分の家からぬいぐるみを持ってこれなかったため、こちらでぬいぐるみを用意することになったため）
- ・学生で、経験の多い先輩と、実施経験が少ない低学年をペアにし、最初は経験者が医師をやり、その様子を低学年が間近で見れるようにし、後半は低学年を中心に医師役をやり、前半の問診で学んだことを生かせるようにと思ってシフトを作成した。
- ・カルテをいままで毎回変えていたが、昔のを再利用した。

今回の実施を受けての反省点と、それに対する改善策

- ・キアニスドールの用途にあってない使い方をしてしまった。キアニス団体にも問い合わせるべきであった。
- ・アイスブレイキングで、キアニスの顔を書いたが、持って帰るということを先に言ってなかったため、違う顔にすればよかったと思ってる子がいたようなので、最初にしっかり説明しておくべきだった。
- ・時間が余ったときに、それぞれの班で聴診器をいろんなところに当ててみる、他の問診キットに入ってる物を触るなど、様々な対応ができていて良かった！

●保健教育について

- ・テーマ：目の見える仕組みについて
- ・テーマを選んだ理由

学童の先生からの要望があり、学生アンケートでももっとも支持が高かったから

- ・形式：劇 実験 クイズ
- ・内容：

AちゃんとBちゃん、3人の先生による、目の見える仕組みを解説した劇。途中で、画用紙と虫眼鏡で集光する実験を挟んだり、最後に目のストレッチやクイズを入れたりした。

使ったもの（作成したものも含む）

- ・目の断面図（水晶体と網膜のみ解説）
- ・劇の台本
- ・虫眼鏡と懐中電灯（実験のため）
- ・クイズ
- ・白衣（衣装）
- ・役名を書いた看板（首からかけました）

・説明の際、注意した言葉や表現

- ・網膜→スクリーン 水晶体→レンズ と初めに例えた
- ・光の通り道（図を使うときに用いた）
- ・三角形の先っぽ（光が集まる点をさすときに使った）

・園児の反応：

理解：理解してくれた 理解できないようだった わからない

楽しさ：楽しんでいた つまらなそうだった わからない

行動変容：保健教育を受けて、行動が変わった 変わらなかった わからない

まだアンケート結果を見てないのでわかりません…

良かった点

- ・実験のとき、こどもたちに実際にやってもらったので盛り上がった！
- ・座りながら同じ視線で劇をしたので、こどもたちとの距離が近くって、やりとりも多かった
- ・後半組のときは、集中力が最後まで切れなかった。

反省点

- ・前半組は、キアニスをゲットしたばかりだったので、キアニスに意識が言ってしまう子

がいた。最初に、お人形は置いておいてねなど声掛けするとよかった気も。

- ・光と物が見えるの関連の説明が少なかったので、全体の内容が理解しにくかったかもしれない

- ・練習では、15分ぐらいだったので、大丈夫だと思って本番に臨んだら、本番は20分の枠に収まらなかった。時間はもっと余裕を見るべき。

- ・同じテーマの保健教育をやる大学へのアドバイス

物が見える仕組みは、学生間でも理解の差が大きかった。

最初にテーマに関する勉強会を開いて、知識を共有すべき。

視力が悪くなる仕組みを扱おうと当初はなっていたが、実際医学的にわかっていないことが多いことが分かった。

小学生は目の悪くなり始める子が多い時期なので、目について扱うことはいいなあと思うが、内容がむずかしくなりがちだったり、学生も間違っ理解しがちなので、いろんな人が保健教育作りにかかわったり、上級生や現場の医師の意見も聞けたら良かったなあと思います。

- ぬいぐるみ病院では無い活動（小児科活動、町のお医者さんなどはこちら）

- ・活動の名称：アイスブレイキング

- ・内容 キアニスの顔を書こう

問診で使うキアニスの顔を書いてもらった

今回の実施を受けての反省点と、それに対する改善策

- ・問診に連れっていくよ、と説明して始めたら、血や包帯を書く子が多く、それを家に持ち帰ると聞いた時に、それならこういう風に書かなかったのにとという反応が見られた

- ・